

れとも、東京の空が少しずつでもきれいになってきたためなのだろうか。もし前者であれば、自然の変化の妙味で、時には美しく、時にはみにくく紅葉してゆくので、今年はたまたま美しい紅葉となったせいであろう。しかし、もし後者だとしたら、東京の空から塵埃やスモッグなどが少しずつではあるけれど少なくなってきたため、植物なども四季折々に応じての自然の変化が普通に行えるようになってきたためであろう。今までの東京の空は、工場から吐き出す煤煙や亜硫酸ガスまたは自動車の廃気ガスなどで、大気汚染はすさまじく、舗道の並木も立枯寸前になるし、金木犀など大気汚染に弱い樹木は花を咲かせなくなっていた。それに植物の四季の変化の現象である紅葉も、空気の清澄な所に見られる様な冴えた赤い色に変色しないで、赤茶けたひねた褐色に変色しては落葉して行った。

しかし、最近の公害に対する国民の関心のたかまり、とくに1970年代は公害との対決の時代であるといわれているほどに公害問題は国内的にも国際的にも深刻化している現状にかんがみて、大気汚染、水質汚濁、土壌の汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭などの公害すべて許すまじの国民大衆の姿勢は、国の方針や企業の経済活動にも少しずつ変化を与えてきているのではないか。そして、それが東京の空を少しでもきれいにし、もとの青空に戻しはじめてきたのではないか。だから紅葉も美しく変化したのだらうと思う。そうだとすると国民の側の意識のたかまりが、国民の側の手をつないだ運動が、国の政策や企業の経済活動のあり方を変える原動力となっているわけで、いわば国民が手を取り合うことこそ大きな力となるのだと思う。

かつては「霧のロンドン」といわれ名物となっていたロンドンの霧も、最近はその発生が少なくなり、ロンドンの空はきれいになってきたとか。わが国でも八王子市に端を発するノーカー運動が、今度は三多摩地区で、やがては全国的な規模で行なわれるようになるだろう。またゴミ公害の発生を少なくするためにノー包装運動を行なったりする。こうして国民の側からも公害防止のために積極的に協力する。そして、少しずつではあるけれど、できるだけ公害の発生を少なくし、住み良い東京を、また住み良い日本を建設してゆくことが大切である。まだまだ私達の周囲には、問題がたくさん山積しているのだから。

切手をはる趣味

吉野正敏

切手を集める趣味の人は多い。私は元来、切手を集める趣味はなかった。今もないというべきで

あろう。ところが、ヘソマガリの常として、他人があまり持たない趣味を……と言うわけでもないが、美しい切手をはって他人に出す趣味がある。

この前、最近の印刷物を発送すべく、アルバイトに頼んである女の学生さん2人に、「これをはってくれ」と、かねて買いおいてある記念切手を出したら、2人は口ぐちに、「非常にもったいないデス。ひじょうに。」とおっしゃって、しばしばはろうともしない。「この切手は額面の2倍します。」とか「いや3倍デスヨ」とか言うのである。私も切手を集める趣味がないとは言っても、古い記念切手がどの位しているかぐらい知らぬわけではない。仕方なしに、それぞれに、それぞれの記念切手1枚づつを額面でゆずって、残りははってもらった。額面が例えば2倍の切手をはれば70円でいいところを140円はって出すようなものである。

「外国には切手屋と言うのが、大げさに言えば日本のタバコ屋のようにたくさんあって、散歩しているときにそのウインドをのぞき、日本のどの記念切手がどのくらいするかは皆よく知っているのだからインだよ。」と、このアルバイト嬢をなだめるのに苦労した次第であった。

記念切手をはって出すと、色々な反響がある。外国人の中には、会ったトタンに、「美しい切手をいつもありがとう」と言う人がある。『中の論文の別刷のお礼を言わないで切手のお礼とは。』と内心思うが、こういう人に会ると、平常の努力のカイがあったと思って悪い気はしない。と言うのは、記念切手を売出されるたびにたくさん買っておくのは容易なことではないからである。もともと、はって出すのが趣味なのだから、シートで買いおいて値上りしてから売ろうなどという気は全然ない。だから、今これを切手屋さんで買えば、例え額面の2倍しようが10倍しようが、私にとっては買ったときの昔の値段のままで、私の手もとにしまわれていたものに過ぎない。切手の入手が早すぎて、発送すべき印刷物がなかなかできなかったに過ぎない。しかし、記念切手は、わが国では発売の当日の朝、美しい切手の場合には行列しないと手に入れることはむずかしい。手もとにしまっておいて、イザと言うときに『はる。』と言うことは容易ではないのである。私の老母が行列して買ってきてくれるので、手にはいるのである。

こちらが記念切手をはって出すので、外国からも日本の中からも、記念切手をはってくださる方が多い。それを捨てるのはもったいないので、当然はがしてため込むことになる。少したまってくると楽しみになり、多少の分類を試みるとますます面白くなってくる。自分で、「切手を集める趣味はないのだ」ときかせながらも、アルバムで10冊を越す量が現在たまってしまった。